



気仙沼と世界を繋ぐ 未来への道づくり

株式会社 菅原工業
人事部 小比賀 早紀

菅原工業株式会社

住所：宮城県気仙沼市赤岩迎前田132

創業：昭和40年10月1日

**業種：建設業・運送業・
産業廃棄物収集運搬業(宮城、岩手)・
砕石業**

**従業員45名 外国人技能実習生4名
特定技能 1名**



○アスファルト舗装



○アスファルトプラント



コーポレートスローガン

安全第一



『このまちをつくる』





ひと



人材不足・人口減
技能実習生・気仙沼人事部

私たち菅原工業は
企業・地域の課題を
海外と繋がる事で解決し

地域の**当たり前**の日常を提供し
持続可能な地域の未来への
道をつくる企業です



文化



交流・関係人口増
多文化共生社会構築



産業



復興需要減の対応
外貨の獲得・大手との連携

当り前の日常を当り前にする

『市民が快適で安心して暮らせる環境をつくる』



除雪作業



災害時の対応



融雪作業



インフラ整備工事

その為には。

**緊急時の24時間対応可能な
組織体制が必要**

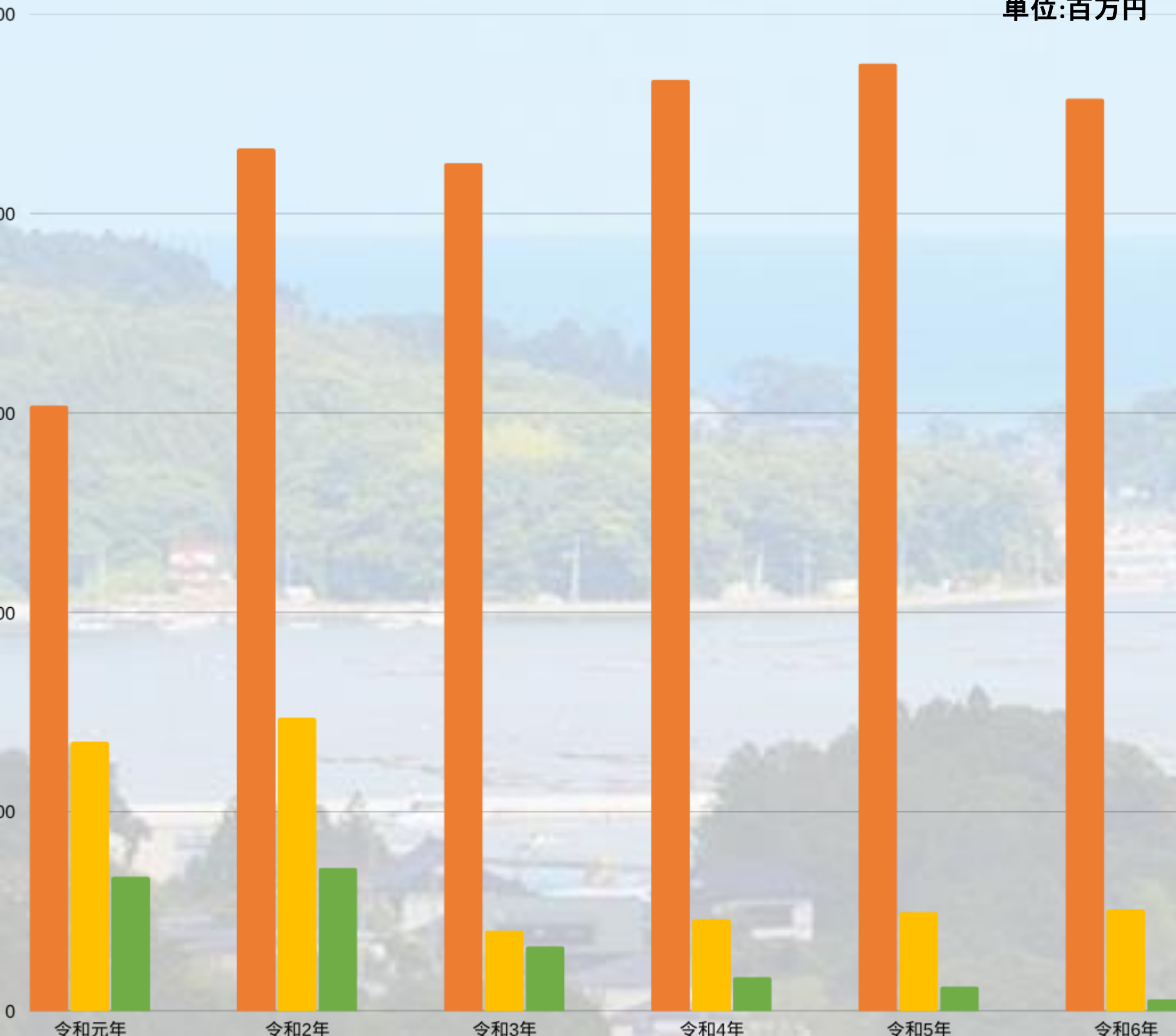
公共工事が減少する中での
人材の確保が課題となる

外部環境

市場・顧客の分析

● 東北地方整備局 ● 宮城県 ● 気仙沼市

単位:百万円



・東北地方整備局

令和2年以降2000億を超える予算を確保している、大手企業向けの入札が多く占めるが、一次下請業者に選定される様に企業力を上げていく必要がある。

・宮城県

令和2年の730億以降200億まで下がっているが、令和4年度以降は上昇傾向にあります。入札制度は総合評価入札が主で、地域内での落札見込みは高い。企業点の維持を心がける。

・気仙沼市

近年は、令和2年の300億をピークに減少傾向にあり、R6年は補正予算を考慮せずに30億となっている。少ない入札案件を確実に落札出来るよう精度を高める。また総合評価入札の仕組の提言。

企業の課題・地域の課題

『慢性的な人材不足の課題解決』

『復興需要減への対応』



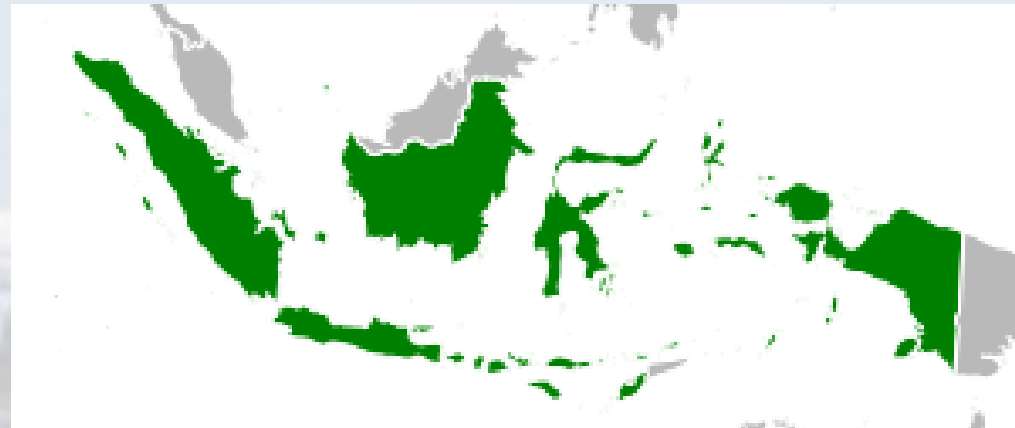
慢性的な人材不足の課題解決



外国人技能実習生を招き入れる



実習終了後インドネシアへ



インドネシア



復興需要減への対応

互いの地域の課題を解決し、地域間の架け橋になる

2014年

技能実習生受入開始



2015年

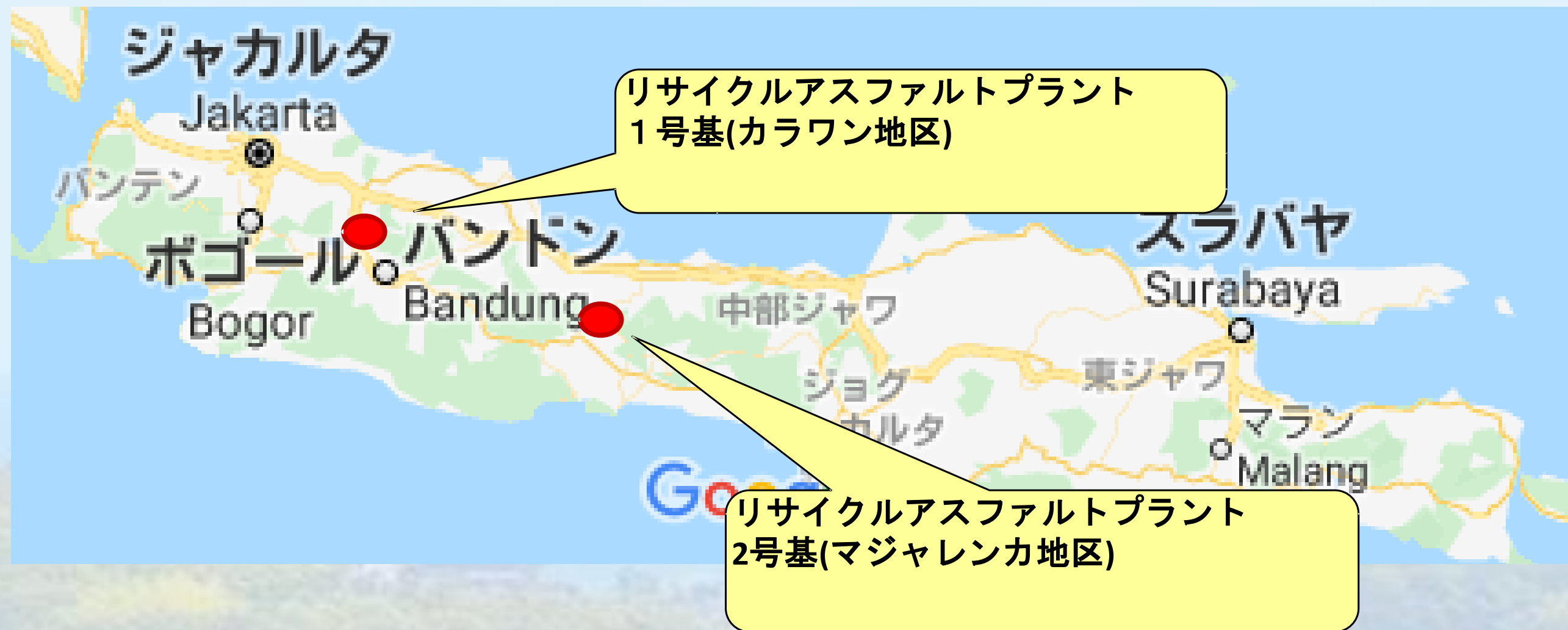
合併会社設立



2016年

リサイクルアスファルトプラント建設

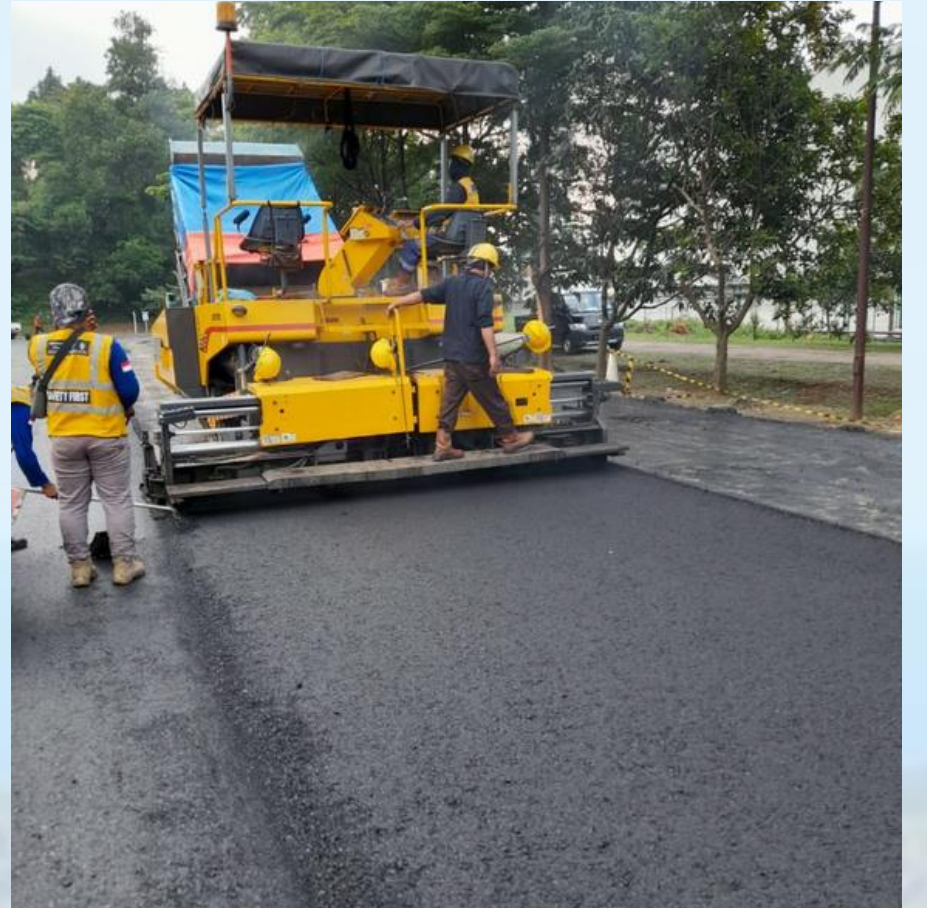




1号機 2016年完成



2号機 2022年完成



JAPANコンストラクション国際賞 国土交通大臣賞



外国人材とつくる建設未来賞 国土交通大臣賞



JICA 国際協力機構

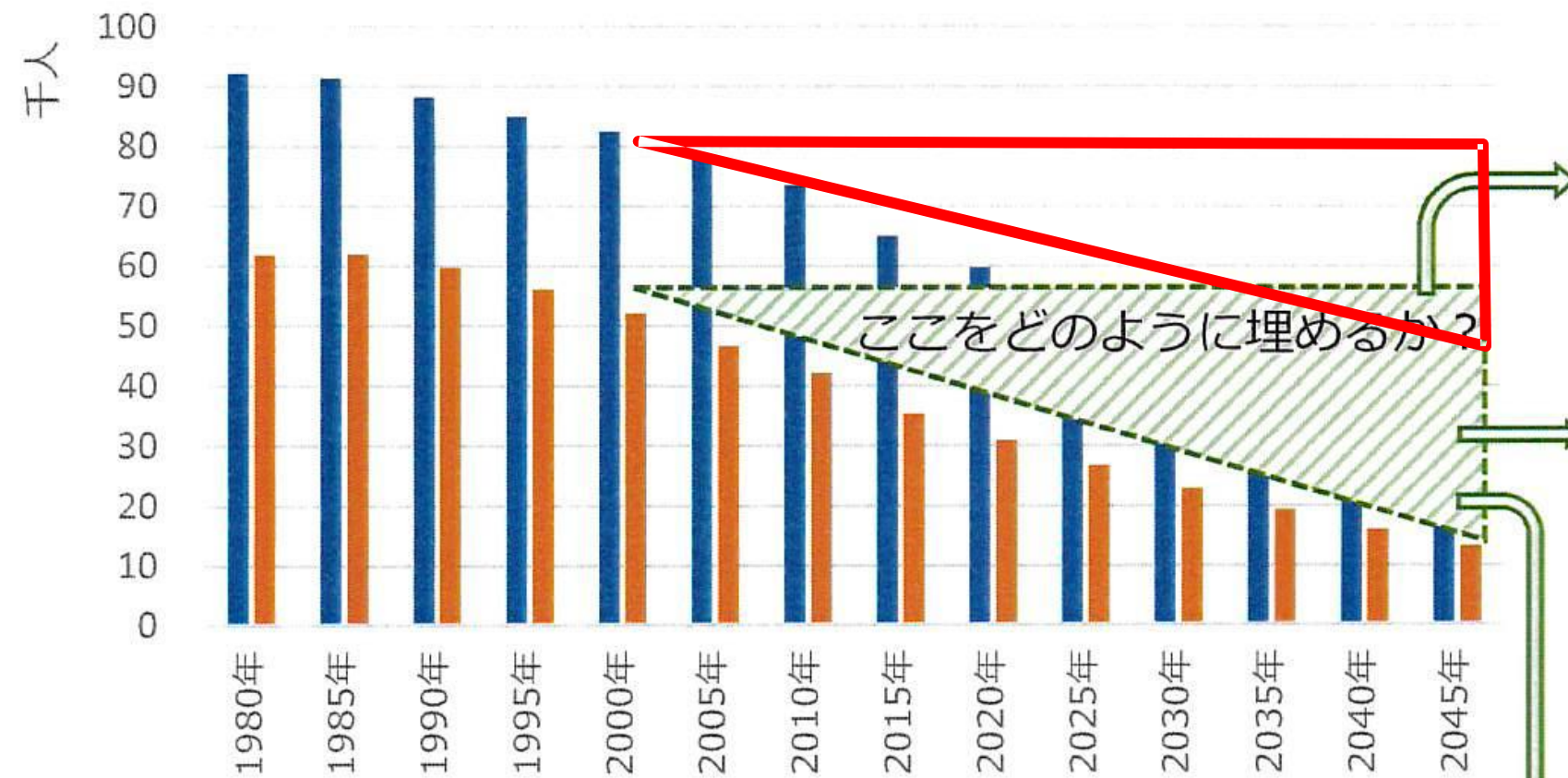


JBIC 国際協力銀行

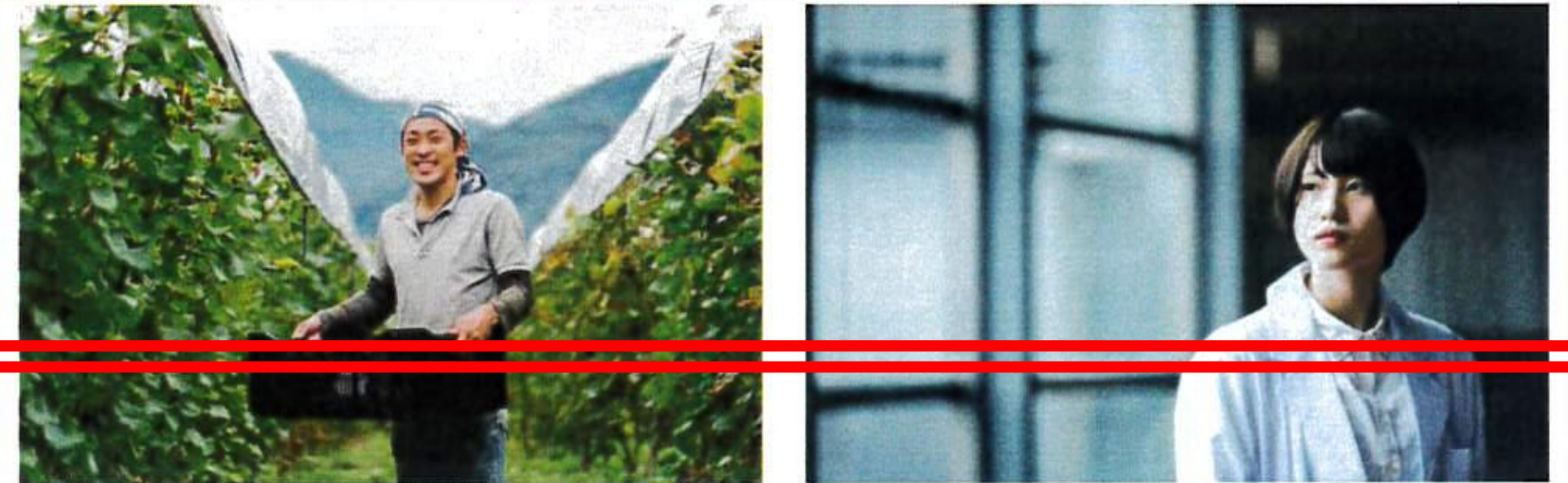


生き残るには、多角的なアプローチが必要

人口推移



Uターン



Iターン



機械化



多文化共生社会構築

インドネシア料理店 ～WARUNG MAHAL～

日本で一番インドネシアと交流のある街『気仙沼』を目指す
選ばれる『国』・選ばれる『街』になる

●インドネシア料理店



●ムショラ（祈祷所）



・インドネシア人との「食」を通じた文化交流

「食」で社員研修



食を通して一緒に考えませんか？
あなたのお隣さん、
気仙沼で暮らす外国人のこと

ワークショップ概要
気仙沼は、港町の歴史の中でインドネシアの方々を多く受け入れて来ました。震災当時、インドネシアのエドノ大統領が気仙沼市を訪れ、気仙沼図書館の建設費の一部を寄付するなど、深い交流が育まれています。そうしたつながりから、震災後復興を目指す地元企業が、インドネシアの方々を技能実習生として受け入れることが増えたといわれ、現在では、300人近いインドネシア人技能実習生が気仙沼で暮らしています。また、東京五輪・パラリンピックに参加するインドネシアの「復興『ありがとう』ホストタウン」に選ばれ、今後ますますインドネシアとの交流事業が加速することでしょう。そこで、気仙沼在住のインドネシア人技能実習生と日本の若者が、食を通して自国・他国の文化に触れる機会としてワークショップを企画しました。

2019.12.28 (Sat.)
15:00 ~ 17:00
食事会 18:00 ~ 20:00

参加費：無料 **定員：若干名** **対象：どなたでも**

スケジュール
14:30 ~ 15:00 受付
15:00 ~ 17:00 文化交流ワークショップ
17:00 ~ 18:00 休憩・移動
18:00 ~ 20:00 食事会

会場
スクエアシップ (気仙沼市まち・ひと・しごと交流プラザ2F)
〒988-0018 宮城県気仙沼市南町海岸1番11号 TEL: 0226-25-8591
インドネシア料理 ワルン・マハール (みしおね横丁内)
〒988-0037 宮城県 気仙沼市魚市場前4-5 <https://sugawara-idn-cuisine.com/>



インドネシアを知る

- ・気仙沼とインドネシアの文化的な交流をつくるために、
- ・中学生が企画・立案

メニュー開発
インドネシア料理
×気仙沼の食材



大試食会
インドネシア料理 無料ふるまい先着 50名

食を通して一緒に考えませんか？
あなたのお隣さん、
気仙沼で暮らす外国人のこと

開催日
1.19 (SUN)
2.23 (SUN)
引換券当日のみ有効

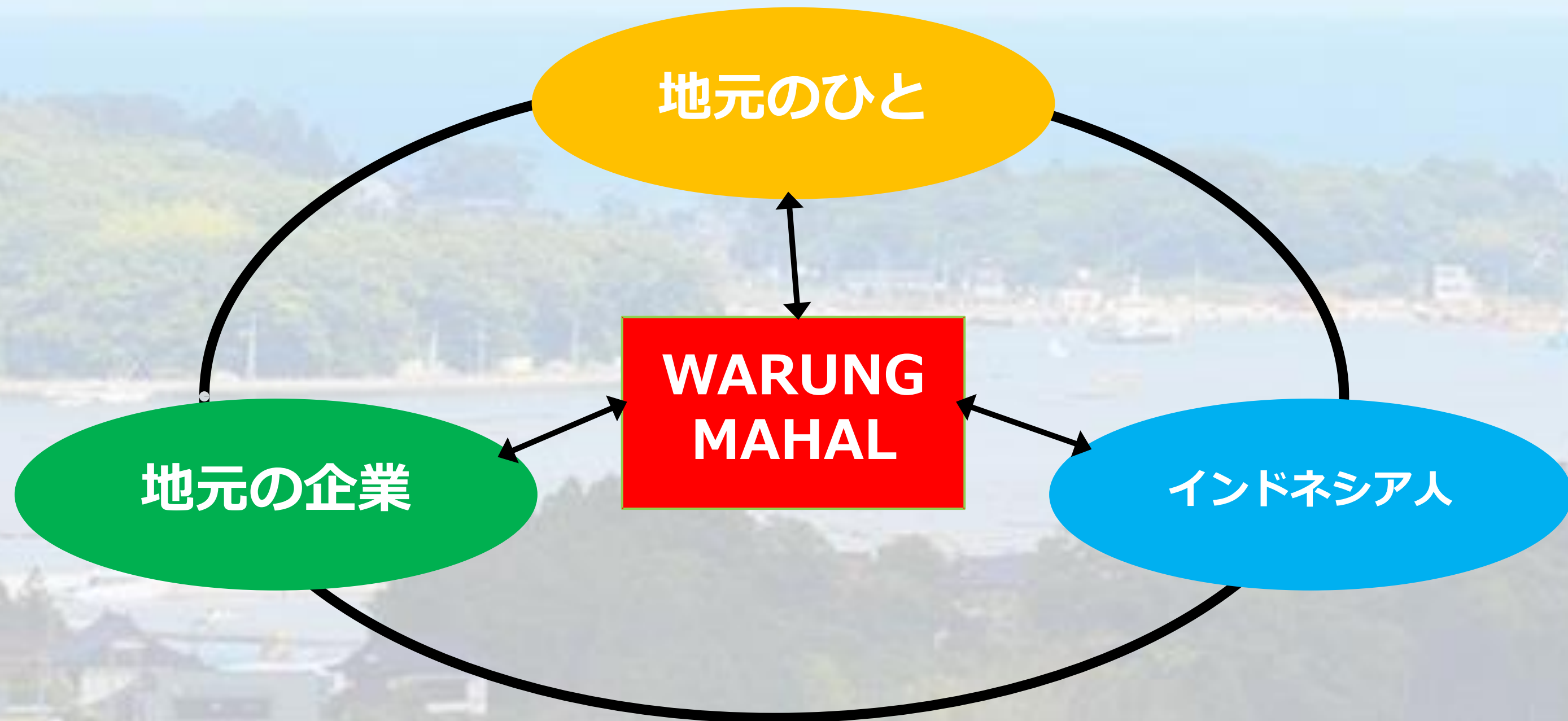
会場
みしおね横丁内 インドネシア料理
ワルン・マハール
〒988-0037 宮城県気仙沼市魚市場前4-5
<https://sugawara-ida-cuisine.com/>

イベント概要
気仙沼は、港町の歴史の中でインドネシアの方々を多く受け入れてきました。震災当時、インドネシアのエドヨノ大統領が気仙沼市を訪れ、気仙沼図書館の建設費の一部を寄付するなど、深い交流が育まれています。そうしたつながりから、震災後復興を目指す地元企業が、インドネシアの方々を技能実習生として受け入れることが増えたといわれ、現在では、300人近いインドネシア人技能実習生が気仙沼で暮らしています。また、東京五輪・パラリンピックに参加するインドネシアの「復興『ありがとう』ホストタウン」に選ばれ、今後ますますインドネシアとの交流事業が加速することでしょう。ワルン・マハールでは、地元気仙沼の中学生と共にインドネシアの調味料と個性の良い食材を探し、メニュー化するという課外授業を行いました。ぜひ、中学生考案のメニューをワルン・マハールでお楽しみ下さい。

引換券
引換券1枚でご来店人数分有効。お持ち帰りでの提供となります。

私たちワルンマハールの目指す所

- ・インドネシアと気仙沼の食を通じた文化交流のハブになる
- ・異国の文化を**知る**⇒**認める**⇒**受入れる**⇒多様性のある多文化共生社会の構築



2020年度 GOOD DESIGN賞 受賞

地域コミュニティづくり 部門

ムショラを併設したインドネシア料理店ワルン
マハール



**GOOD
DESIGN
AWARD
2020**

多くの皆様に支えられ営業しております



インドネシア共和国 友好アンバサダー賞

気仙沼市長が受賞



菅原市長がインドネシア共和国 友好アンバサダー賞を受賞しました

- 本市とインドネシア共和国は、基幹産業である水産業を通じ深いつながりがあり、遠洋近海マグロ船の乗組員をはじめ、水産加工業、建設業に多くの技能実習生が雇用されるなど、本市の経済活動に大きく貢献していただいております。現在は約280名のインドネシアの方々が技能実習生として活躍されております。
- また、みなとまつりにおける気仙沼商工会議所青年部の「バリバレード」を契機としたインドネシア大使館との交流の継続や、震災時のユドヨノ大統領の訪問など様々な交流により友好関係を深めてまいりました。（経過は別紙参照）
- その後もインドネシア料理店や祈りの場（ムショラ）の出店・設置、（一社）気仙沼インドネシア友好協会の設立、インドネシアフェスティバルの開催、インドネシア技能実習生の地域での交流など、市民の方々が中心となり友好交流が行われております。
- この度、菅原市長にインドネシア共和国との友好関係に貢献した感謝の印として『インドネシアー 日本 友好アンバサダー賞』が贈られました。
- これは、市民の方が中心となり行われてきたこれまでの友好的な交流活動が評価されたものであり、市民の皆様の代表として受賞したものであります。
本市は今後もインドネシア共和国を最重要国の一つとして市民の皆様と共に友好交流を継続・拡大してまいります。

【受賞概要】

- 1 日程：令和5年11月6日（月）
- 2 会場：シェラトン都ホテル東京（東京都港区白金台1丁目1-50）
- 3 概要：インドネシア共和国大使館とインドネシア銀行が国交65周年を記念して共同開催した「インドネシアナイト」において、インドネシア共和国との友好関係に貢献した15名がアンバサダー賞を受賞しました。
- 4 その他：インドネシア銀行総裁のペリー・ワルジヨ氏より、記念品として特注のインドネシアの民族衣装が贈呈されました。



**世界と繋がり、多様な人材を受入れる事で
地域に持続可能な『当たり前』を提供し
100年後の子供達に気仙沼を残す**

